

## 2020 年度活動報告 学部授業：日本語Ⅰ（水）（西宮上ヶ原）

山本 真理（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

1 年生を対象に、週 1 コマ実施された。全 10 クラス、Zoom を使った同時双方向型で行われた。到達目標は、1) 大学のアカデミックライティングで必要とされる基本的なスキルを習得すること、2) 読み手が理解しやすい内容で 1500 字程度でまとめること、3) 他者が書いたレポートに対して建設的なコメントができるようになることであった。

### 2. 授業内容

本年度は全 11 回の実施であった。初回の授業では、LMS（LUNA）を用いてオリエンテーション、自己紹介、課題を行った。残りの 10 回は同時双方向型オンライン授業でアカデミックライティングのための基本的なルール、論証型レポートの作成手続き、序論・本論・結論の書き方などを身につけながら、学生が自由に選択したテーマでレポートを一つ作成した。また、レポートの推敲においては、教師フィードバックよりもクラスメート同士で互いのレポートにコメントし合うこと、それを通して改善していくこと（ピア・レスポンス活動）に重点をおいた。活動はオンライン授業であることを活かし LMS の掲示板を使って行った。コメントの回数や内容も評価対象とした。教師は学生間のやりとりの活性化や建設的なコメントができるよう学生のサポートをした。

### 3. 成果と今後の課題

本年度の成果として、1) 扱う項目の厳選化と 2) レポート推敲プロセスの変化、があげられる。これまでは一般的に通用するレポートが書けるようになることを目的としていたために、教えるべき項目が多岐に渡り、教師・学生にとって大きな負担となっていた。しかし、本年度はレポートの読み手を「クラスメートと担当教師」と明確にし、アカデミックライティングに必要なスキルはこの目標を達成するためのものという位置付けとした。これにより、扱う項目が絞られた。また、「読み手の視点」を重視したことによって、推敲過程でクラスメートとやり取りをする必然性が生まれた。活動に対しては「みんなでコメントを書き合うことが役に立った」「もっとみんなで話したかった」といった肯定的な声があった。一方、オンライン授業だったため、クラスメート同士の関係形成が十分にできず、コメントをし合うことを負担に感じたり、遠慮をしたという声もあげられた。この課題はオンライン授業に限ったことではなく、対面授業の活動においても十分に注意を払う必要がある。